

河畔林に関する話題

- 新川～野鳥の会との調整による伐木について
- 尻別川～河畔林伐木工事における課題等
について

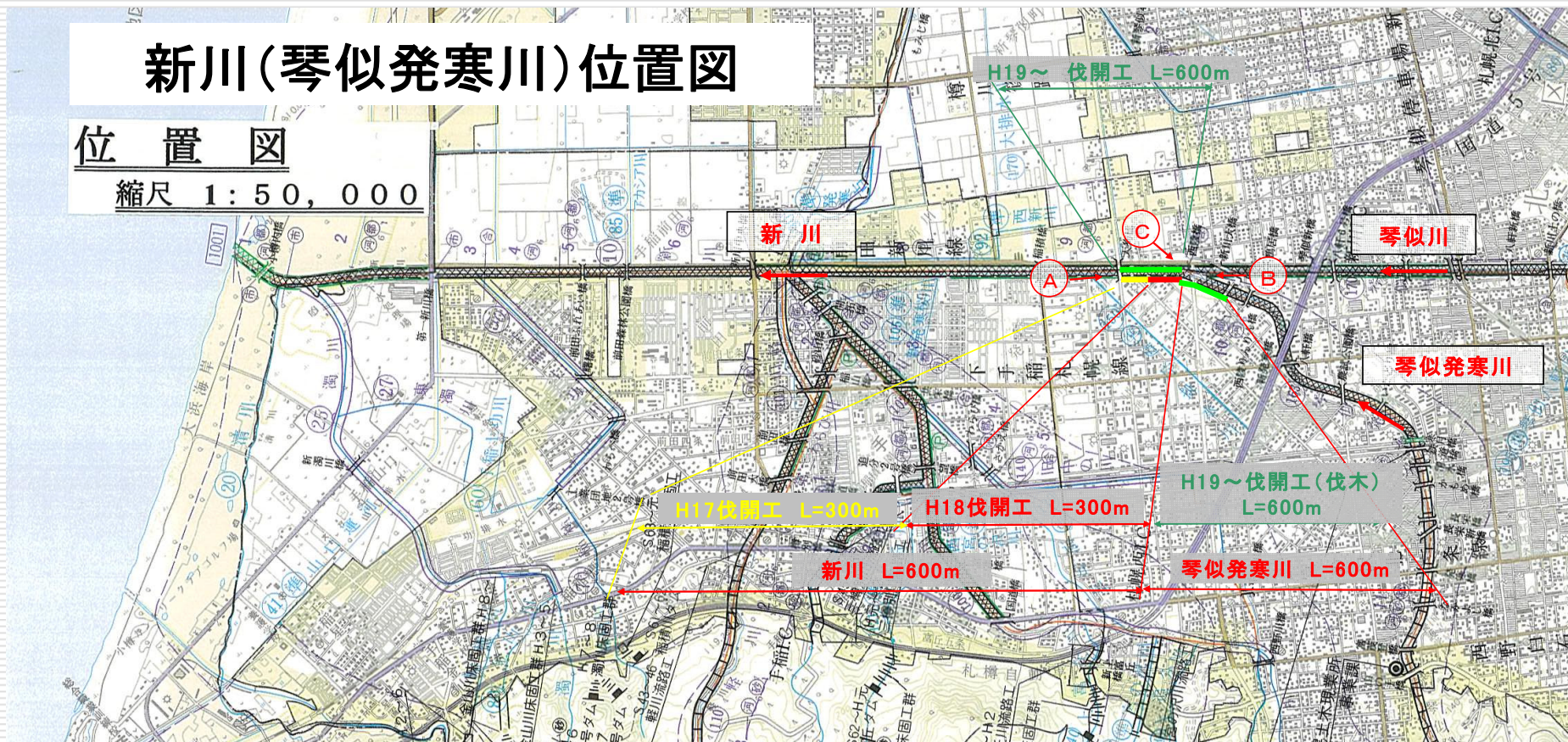
北海道建設部土木局河川課

新川(琴似発寒川)の河畔林について

新川(琴似発寒川)位置図

位置図

縮尺 1:50,000



過年度施工写真(河川維持費)

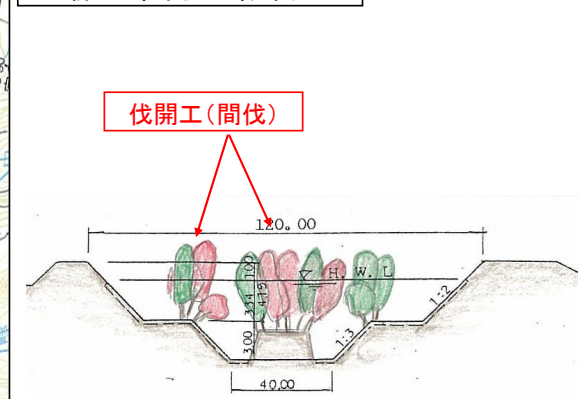


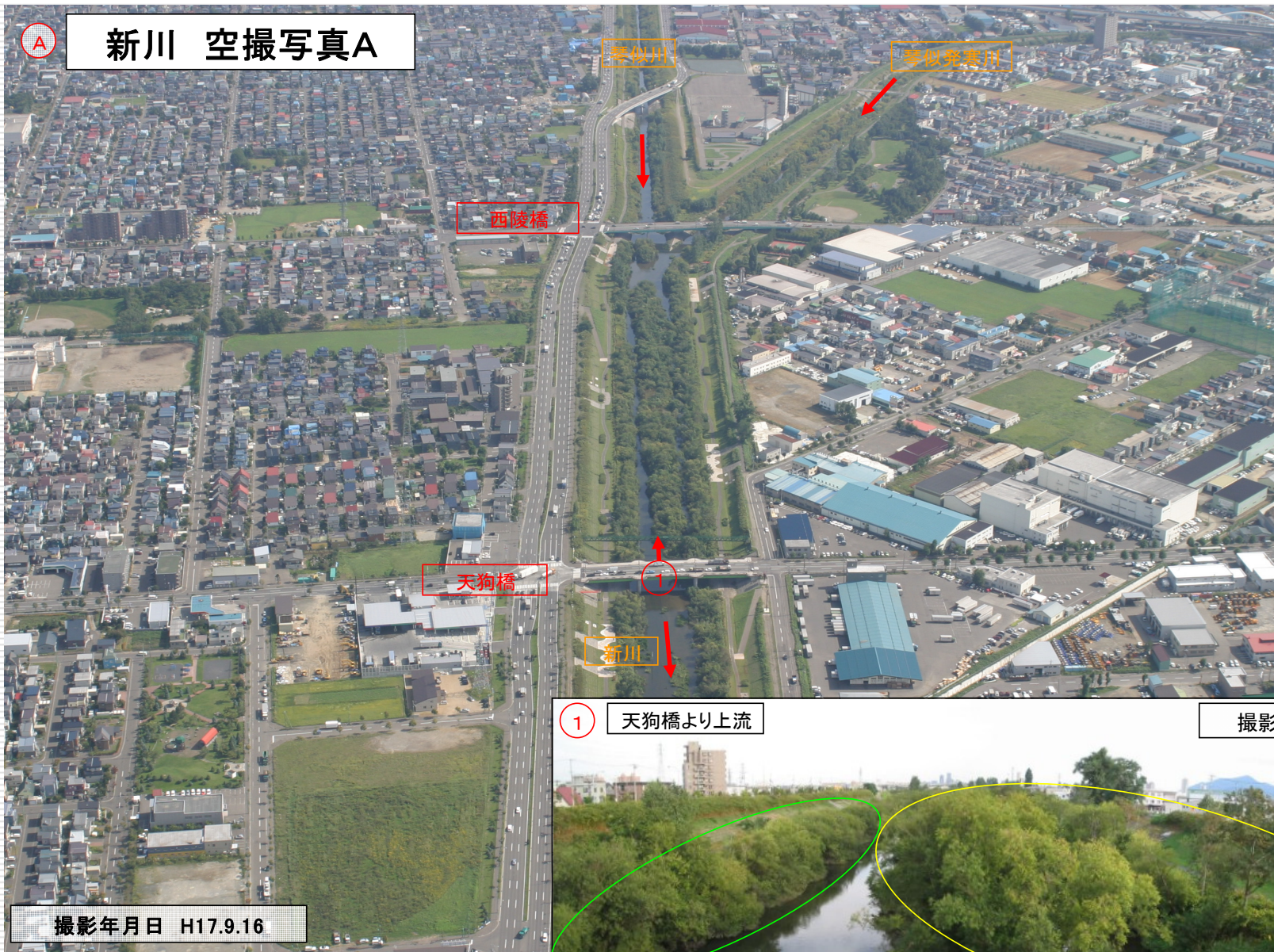
着工前 (H17.3.6)



完成 (H17.3.17)

新川 伐開工 標準図





① 天狗橋より上流

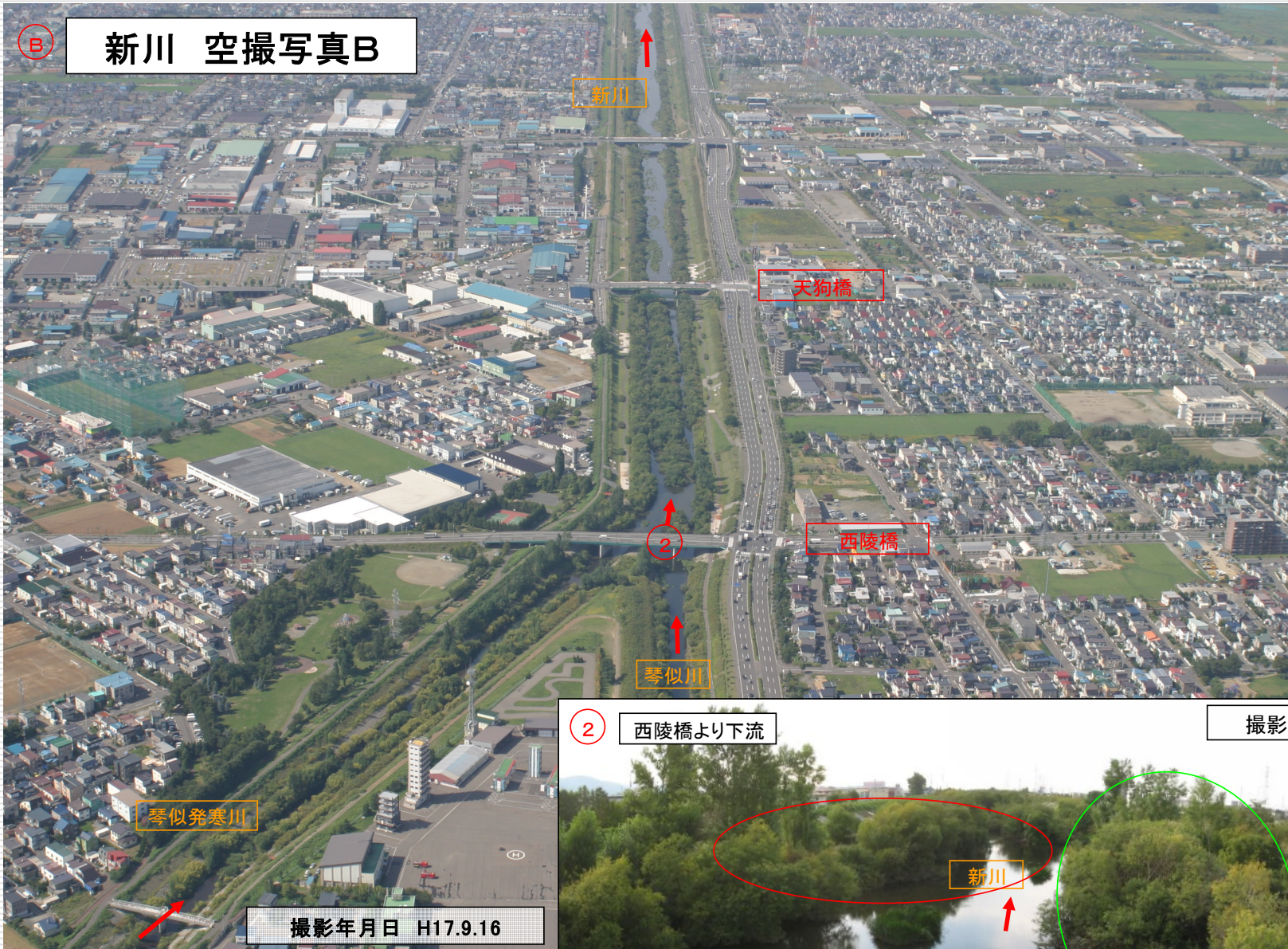
撮影 H18.9.14



H17河川維持にて間伐実施

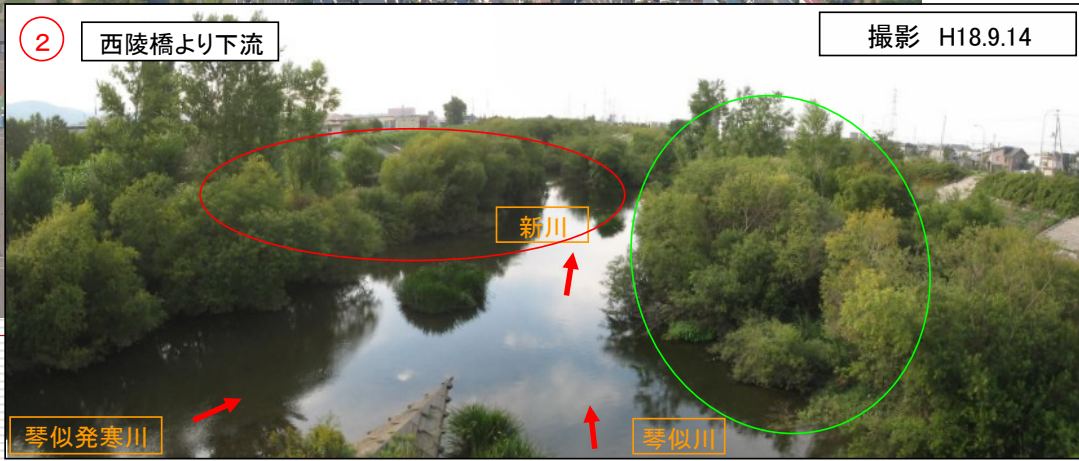
ⓑ

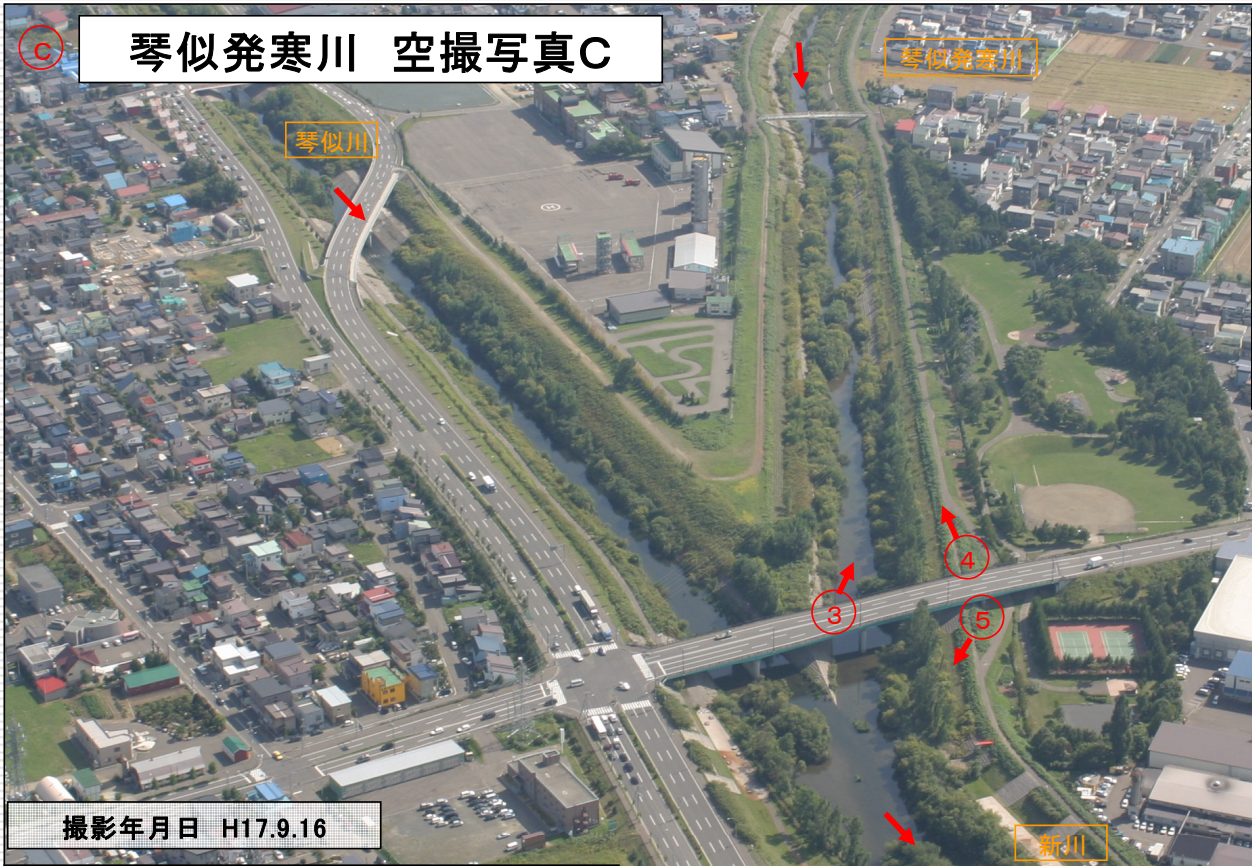
新川 空撮写真B



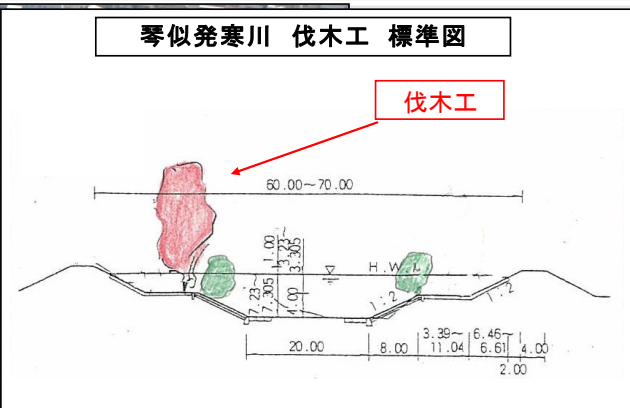
② 西陵橋より下流

撮影 H18.9.14





③ 琴似発寒川 空撮写真C



伐木対象樹木
樹種: ポプラ、樹高H≒15m、幹径φ≧0.5m



撮影年月日 H17.9.16

撮影 H18.8.3



③ 西陵橋より上流 河道側から

撮影 H18.8.3



④ 西陵橋より上流 左岸築堤側から

撮影 H18.8.3



⑤ 西陵橋より下流

撮影 H18.8.3

新川(琴似川)の中州箇所伐開イメージ

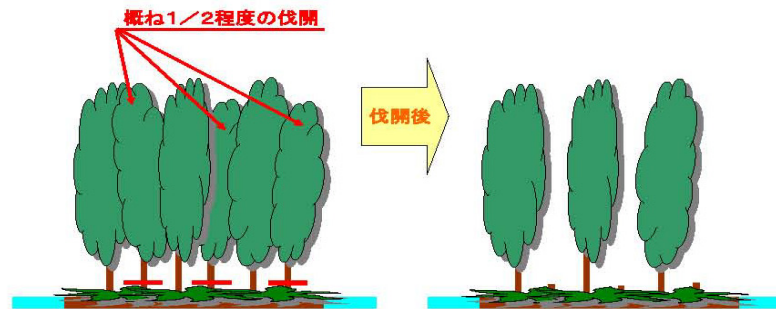
1. 今回(平成17年度)の伐開イメージ

・環境の激変に伴う生態系への負荷を軽減するため、伐開については全体の1/2程度の実施とする。

・密な河畔林の場合死水域となるが、粗な河畔林は流下断面として扱える。
新川の断面において死水域の存在は認められないことから、今回の事業は間伐により流下断面の確保を図ることが目的である。

伐開前のイメージ

伐開直後のイメージ



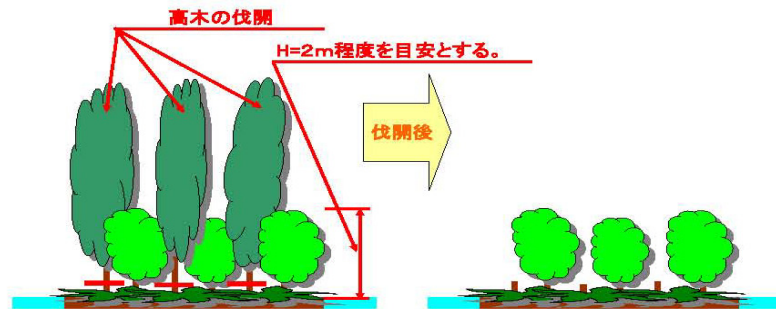
2. 次の伐開イメージ

・伐開木が萌芽・成長し、鴨のひなどの隠れ家となるようなブッシュが形成された頃残る高木を伐開する。

・H=2m程度成長した段階を目安とする。

伐開前のイメージ

伐開直後のイメージ



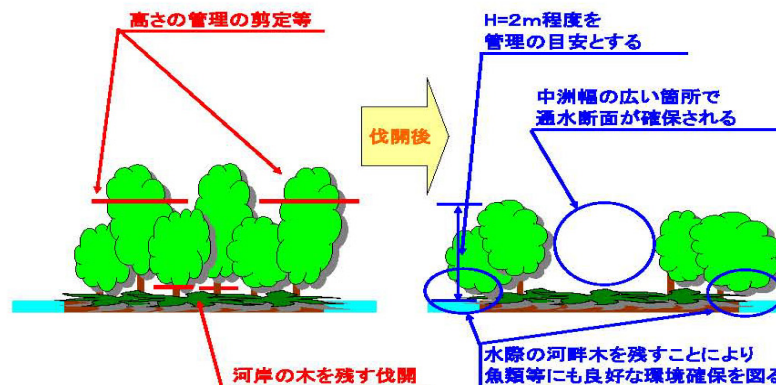
3. 最終的な伐開のイメージ

・萌芽により形成されるブッシュは枝葉等が密生し通水阻害の度合いが大きいことから全体的に2~4m程度となった時点で、河岸の木を残すような伐開や高さ管理の剪定などを実施して、治水安全度と良好な河川環境を確保する。

・過年度の打合せのとおり2m前後の高さでの管理を目標とする。

伐開前のイメージ

伐開直後のイメージ



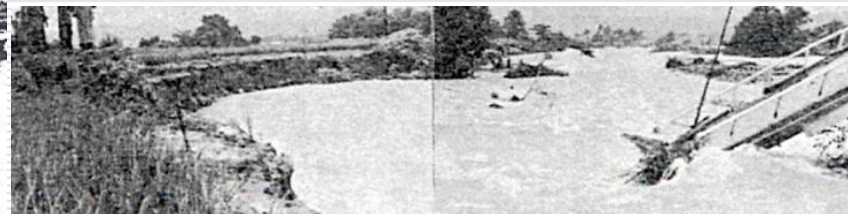
尻別川の河畔林について

尻別川の主要洪水

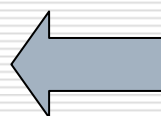
- 明治42年4月洪水
- 昭和 7年8月洪水
- 昭和24年9月洪水
- 昭和34年4月洪水
- 昭和36年7月洪水
- 昭和37年8月洪水
- 昭和50年8月洪水
- 昭和56年8月洪水
- 平成11年8月洪水



昭和34年【京極】



昭和36年【京極】



昭和34年 尻別川改修工事着手



昭和56年【喜茂別】



平成11年【喜茂別】

工事の概要

- 工事名：尻別川(道単)改修工事(倶知安地区)外
 - 工期：平成18年7月7日～10月30日
 - 工事概要：羊蹄大橋～寒別橋の伐木
延長 4.5km 面積45千m² 等
-

伐木工事区間



- 昭和35年～43年にかけて改修工事
- 維持管理は倒木などの処理程度

伐木区間の現状

□ 尻別川流域倶知安地区の現状

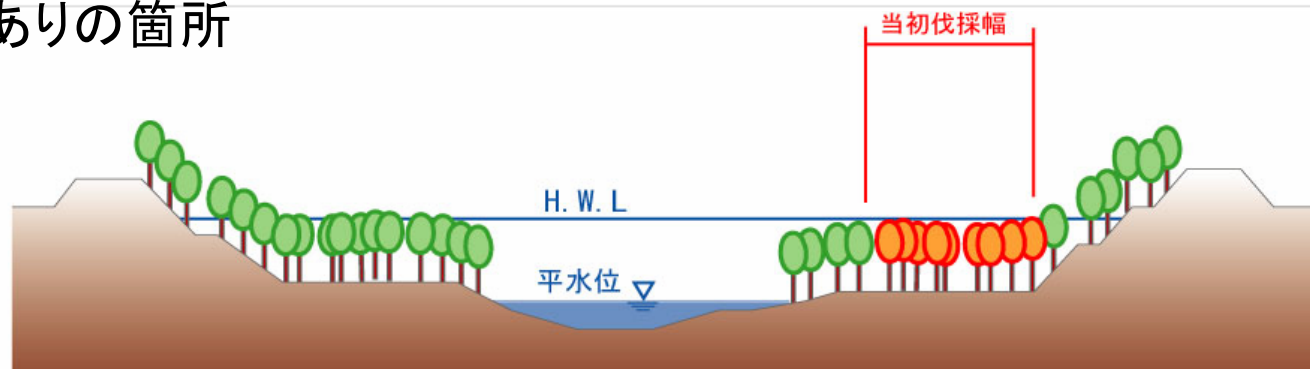
- 堤防から水際までの間に繁茂した木々が流水を阻害することが懸念
- 今年度より適宜、当該地区の伐木を進める計画



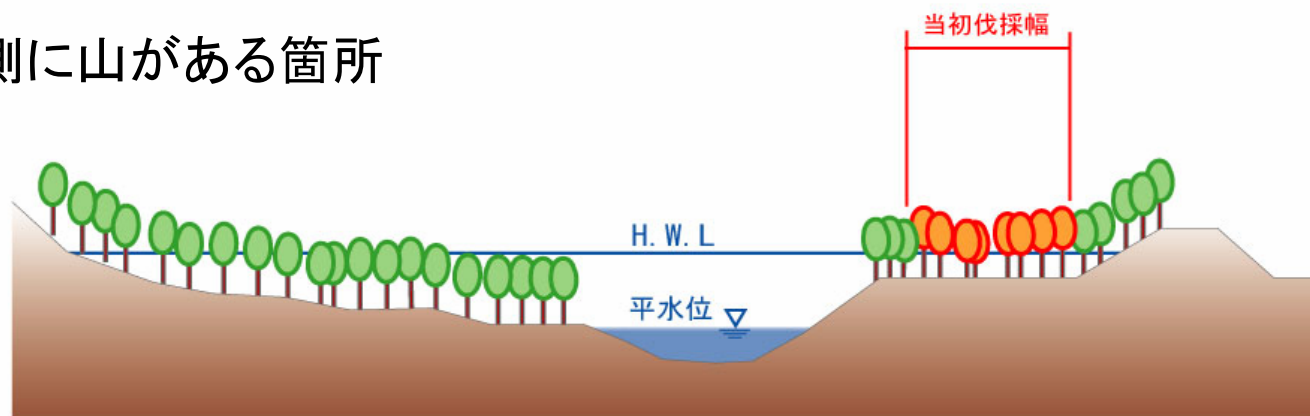
尻別川の河畔林の繁茂状況

伐採幅について

堤防ありの箇所



左岸側に山がある箇所



伐採工事区間の利用について



- ラフティングの主コース区間と一致
- 自然環境や景観保護の重視

→地元の観光業者からの工事反対の意見

河畔林伐採についての経緯①

- 8/17 地元の観光業者から真狩出張所に電話
- 尻別川寒別橋下流右岸の下草刈りと立木のマーキングについて質問
- 8/18 説明会の要望
- 尻別川の豊かな自然環境やラフティングなどの河川の利用形態を考えると工事に関して事前に何らかの公表や説明がないことに疑問



平成18年8月7日 樹木調査におけるマーキング状況

河畔林伐採についての経緯②

- 8/21 改修工事についての説明会
 - 環境影響評価が必要では？
 - 観光や自然保護を全く無視した形で進めるのか？
 - 8/22 関係機関からの電話
 - 今後の進め方は？
-

河畔林伐採についての経緯③

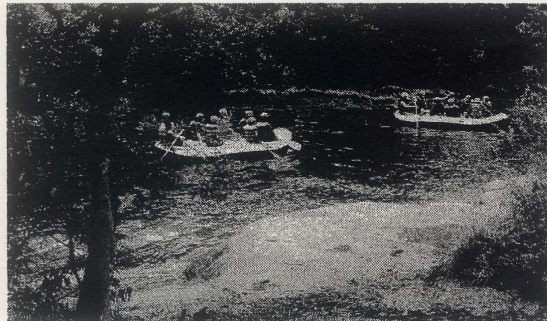
□ 8/23 北海道新聞
倶知安支局より電話
取材

□ 8/24 北海道新聞
朝刊に伐木工事の
記事掲載

→その後、住民の方々から
いろいろな意見をいただきました。

【倶知安】ラフティングでにぎわう後志管内倶知安町の尻別川で、小樽土現が治水対策として河畔林の伐採計画を進めていることに対し、同町内の観光業者が「ラフティングの魅力が半減させる」と

業者「ラフティングの魅力半減」▶



土現が伐採を計画する尻別川の河畔林。ラフティングでは自然の景観が売り物の一つだ

計画の見直しを求めている。ラフティングは夏のニセコ観光の目玉といえるだけに、「安全」と「観光」をめぐる論議の行方が注目される。

小樽土現真狩出張所の計画では、尻別川右岸四・五キロにあるヤナギ、ミズナラ、シラカバなどを

本年度中に約二千本切る。川沿いの幅三メートルは樹木を残すが、その背後の河畔林は幅十一・二十メートルにわたってすべて伐採する計画。総事業費は約千九百四十万円。

同出張所は、洪水が起きた場合、河畔林が川の流れを阻害するため、はらんとを起さず恐れが高まる」と説明。斉藤秀光所長は、「十五・二十年に

一度の洪水を想定し、その対策としてやらなければいけない工事だ」と話している。

しかし、計画地域がラフティングのコースとなることから、土現が今月下旬、地元のラフティング業者を対象に開いた説明会では、業者側から反対の声が上がった。

倶知安町によると、現在、町内にあるラフティ

倶知安 河畔林の伐採で対立

ある業者は「川は河畔林があって初めて自然景観として成り立つ。川岸にしか木がなければ、それは自然と呼べない」と反発。「自然生活体験センター冒険家族」の阿南敏三代表も「川をそのままにできないのか」と伐採中止を求める。

同出張所は来週にも再び説明会を開き、業者らに理解を求める考えで、同町や後志支庁の観光拒当者は、両者の対応を見守っていく構えだ。

小樽土現真狩出張所の計画では、尻別川右岸四・五キロにあるヤナギ、ミズナラ、シラカバなどを

本年度中に約二千本切る。川沿いの幅三メートルは樹木を残すが、その背後の河畔林は幅十一・二十メートルにわたってすべて伐採する計画。総事業費は約千九百四十万円。

同出張所は、洪水が起きた場合、河畔林が川の流れを阻害するため、はらんとを起さず恐れが高まる」と説明。斉藤秀光所長は、「十五・二十年に

一度の洪水を想定し、その対策としてやらなければいけない工事だ」と話している。

しかし、計画地域がラフティングのコースとなることから、土現が今月下旬、地元のラフティング業者を対象に開いた説明会では、業者側から反対の声が上がった。

倶知安町によると、現在、町内にあるラフティ

平成18年8月24日 北海道新聞より

河畔林伐採についての経緯④

- 8/31 倶知安町宛に「尻別川伐採に関わる要望書」が提出
 - 尻別川連絡協議会での協議要望
 - 尻別川河畔林の伐採休止の要請

 - 9/1 現地説明会 現段階での考え方を説明
 - 今回の工事区間の設定根拠は？
 - 今回の伐採工事はいつ決定したのか？
 - 十分な説明資料を求める声
 - 9/1 「河畔林伐採に対する質問書」を受ける (地域住民代表)
-

河畔林伐採についての経緯⑤

- 9/2 北海道新聞朝刊に
現地説明会の記事掲載

伐採計画について説明する小樽土現の職員（左）

尻別川 河畔林 伐採面積半減でもNO!

倶知安のラフティング業者 土現の計画修正案に



【倶知安】町内を流れ 狩出張所は一日、現地で、の、参加してラフティ
る尻別川の河畔林伐採を 計画説明会を行った。土 ンク業者らは、伐採は納
めぐって賛否が分かれて 現は計画を一部変更する 得できない」との姿勢を
いる問題で、小樽土現員、妥協案を提案しても 崩さなかった。同出張所

はさらに、話し合いの場
なを設ける考え。
説明会には、ラフティ
ンク業者を中心に約三十
人が集まった。堤防沿い
を歩きながら、同出張所
の説明を受けた。
尻別川の治水対策とし
て、寒別橋から下流の右
岸四・五キロにわたり、約
二千本の河畔林を切る計
画。しかし、景観を配慮
し「尻別川から離れた堤
防近くの木を幅五・二十
メートルにわたって切る」と計
画の変更を説明した。伐
採面積は二分の一ほど
に縮小するという。
それでも、業者からは
異論の声が相次いだ。
ラフティングガイドの

上種真喜さん（左）は「最
後の伐採計画の有無につ
色を染めた。来る観光客
が多いのに、木を切れば
いる。
同ネットは八月三十
計画を繰り返してはし
い。ガイド摩飯真喜さ
ん（右）も観光ではなく、
自然を守るという視点で
再考してほしい」と訴え
る。

同出張所の斉藤秀光所
長は「さらに話し合いを
続けていきたい」と話し
た。（五十嵐知彦）

◇ 地域住民をつくるタ
ー「尻別川河畔林を考
えるネットワーク」（阿
南敬三氏）は同日、小
樽土現員狩出張所の斉藤
秀光所長に、十一項目か
らなる質問書を出した。
伐採の現状と伐
採した場合は、それ
水位がどうなるか、示
てほしいとしたほか、今

八月に小樽市内で開
た新市立病院を考える
民フォーラムの来場
ンケートで、病院建
計画についての市の説
情報公開が「極めて悪
と答えた人が51%。二
が21%と計72%以上
分かった。『きわめて
「良い』は計8%にと
った。
アンケートは、来場者
百八十人に配り、百九

市計画

平成18年9月2日
北海道新聞より

河畔林伐採についての経緯⑥

- 9/6 住民の十分な同意が得られないことから、伐木工事の一時凍結を決定
今後、河川整備計画の維持管理の中で伐木について検討する。
- 9/6 北海道新聞より取材
- 9/7 北海道新聞朝刊に伐木工事一時凍結の記事掲載

川別川
河畔林

伐採計画を凍結

小樽土現 「住民理解得られず」

【倶知安】後志管内倶知安町を流れる川別川の河畔林伐採計画問題で、小樽土現は六日までに、「伐採に対して住民の十分な理解が得られない」として、本年度の伐採を行わないことを決めた。来年度以降の伐採についても白紙という。

同土現真狩出張所は、治水対策として、川別川の右岸四・五キロにわたって、ヤナギやミズナラなど約二千本の河畔林を伐採すると計画していた。これに対し、「林がなくなれば、清流の魅力もなくなってしまう」と同町ひらふ地区にあるラフティンク業者などが一斉に反発。同出張所は計画を一部変更し、一日に現地説明会を開いたが、話し合いは平行線をたどった。計画凍結について、同町

出張所の斉藤秀光所長は「治水対策のため伐採は不可欠だが、計画を公表せず伐採しようとして、みなさんから誤解を招いた」と話している。計画に反対していた「川別川河畔林を考えるネットワーク」の阿南敬三代表は「伐採計画がなくなったわけではないが、凍結は一歩前進。これをきっかけに住民との話し合いの場づくりを急いでほしい」としている。

日観協「花の観光地づくり」

滝上町が大賞

日本観光協会は六日、二〇〇六年度の花の観光地づくり大賞に、シバザクラやハーブ栽培で知られる網走管内滝上町など全国三団体を選んだと発

河畔林伐採についての経緯⑦

- 9/21 「尻別川の自然環境・景観を活かした地域づくりと安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討流域会議」開催
 - NPO法人しりべつリバーネットが主催
 - 河川管理者との話し合いの場を広く受け皿を作ってほしい
 - 生態系に対する木を切る影響は？

- 11/6 尻別川圏域河川整備計画検討委員会



平成18年11月6日
尻別川圏域河川整備計画検討委員会

尻別川流域会議(06.09.21)

- 第1回 尻別川の自然環境・景観を活かした地域づくりと安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討流域委員会



平成18年9月21日

第1回尻別川の自然環境・景観を活かした地域づくりと安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討流域委員会

尻別川流域会議内容

□ 現状認識の共有

- a)河川行政のこれまでの経過について
- b)尻別川統一条例・羊蹄山麓広域景観づくり指針について
- c)観光・農業の現状について
- d)尻別川の自然環境について

□ 参加者によるフリートーキング

自然環境・治水・景観・観光・農業・漁業など様々な立場からの自由な発言を求めるもの

□ 論点の整理

参加者からの自由発言を基に、尻別川の抱える現状の問題点の整理と、次回会議における方向性について

□ 方向性検討会議における結果内容の取り扱い

流域住民への情報の公開手法および、関係行政機関等への対応方策を検討

課題と対応

- 利用状況
 - 観光事業としての利用が多いこと
- 情報発信の遅れ
 - 今まで、伐木維持工事程度であれば説明会を行っていなかった
- 治水と環境
 - “伐採＝環境劣化”というイメージ
 - “治水と環境のバランス”



事前に情報発信し、地域住民等の理解を得る
